

こどもとおとなのかけはしになる。

合言葉は「子どもびいき」。学生のやりたいを実現するゼミ。

子どもは、子どもとしていまを生きる権利を持っています。彼らの生活保障と愛護について考えるのが児童福祉です。「子どもびいき」に徹し、「こどもとおとなのかけはし」になれる保育者や教育者を育てています。

子どもが平和のうちに生存できる社会をつくるために、どのような社会のしくみをつくればよいのか？ その具体的方策を研究するゼミです。

学生と教員とは、同じ時代を生きる同志。力を合わせてゼミ活動に励んでいます。

SNS を活用した子育て応援プロジェクト

こんにち、保育の分野では「保護者支援」が重要視されています。子育てに悩みはつきもの。気軽に利用できる SNS を活用した子育て相談の取り組みを行っています。相談を受けつけ、返信するのはすべて学生。学生はセミプロです。だからこそ保護者に寄り添える視点があるはず。ゼミ生の発案ではじめた活動です。たくさんの保護者にご利用いただいています。

現代のロバート・オウエン賞

ロバート・オウエンは、産業革命期のイギリスで、保育所のはじまりといわれる性格形成学院をつくった資本家で、社会改良家です。彼は、労働者を大切に
する経営を行いました。

児童福祉施設や少年院を退所（院）した子どもたちにとって、職業的自立は容易ではありません。しかし、現代にオウエンのような経営者がいれば、彼らは自らの力で人生を切り拓いていくことができます。

オウエンさながらの経営者を見つけだし、顕彰をするのが「現代のロバート・オウエン賞」です。非行少年をのべ 200 人以上雇用してきたガソリンスタンド社長、障害のある人や不登校の子どもと向き合い就労支援をおこなう町工場の社長など、これまでに 5 名の企業家に授賞しました。

